

令和5年度第1回在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議報告書

1. 開催日時 令和5年5月25日（木） 午後2時から4時まで
2. 開催場所 市役所本庁舎3階 災害対策室2, 3
3. 出席者 森谷委員、筒井委員、近藤委員、野田委員、土橋委員
福岡委員、日野口委員、廣瀬委員、岩崎委員、篠澤委員（欠席者平澤委員）
事務局 福祉部 板橋部長、高齢者福祉課 竹内課長、加藤、栗原、今井
健康課 松岡課長
白井駅前地域包括支援センター 櫻田、西白井駅前地域包括支援センター 大澤
白井中央地域包括支援センター村上
4. 傍聴者 6名
5. 次第
令和5年度第1回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議
委嘱状交付式
 - ・委嘱状の交付
 - ・市長あいさつ
 - ・委員自己紹介
 議題
 - (1) 会長選出について
 - (2) 令和4年度在宅医療・介護連携事業および認知症総合支援事業の実績報告
 - (3) 令和4年度認知症初期集中支援チームの実績報告
 - (4) 令和5年度在宅医療・介護連携推進事業および認知症総合支援事業計画
 意見交換

「在宅医療と介護の連携について感じること」

6. 議 事 以下の概要のとおり

事務局	○ 委嘱状交付 ・笠井市長より、各委員に委嘱状を交付 ・市長あいさつ 市長よりあいさつがなされる。
事務局	○ 第1回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議 委員の自己紹介 事務局職員の自己紹介
事務局	それでは、議題に移る。 本日の出席委員は、10名。本協議会設置要綱第6条第2項の規定により、過半数に達しているので、議事を進める。
事務局	議題1 会長の選出について協議をお願いします。 なお、仮議長を事務局が務めさせていただきます。

<p>委員</p>	<p>会長については、要綱第5条により委員の互選により選出することとなっているが、推薦や意見があればお願いしたい。</p> <p>前任期で会長を務めていただいた森谷委員を推薦したい。</p> <p>ただいま、森谷委員をお願いしたいとのがあったが、如何か。</p> <p>(異議なし)</p> <p>拍手あり、会長を森谷委員にお願いする。</p> <p>会長より、あいさつがなされる。</p>
<p>会長</p>	<p>第1回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議</p> <p>○議題2 令和4年度在宅医療・介護連携事業および認知症総合支援事業の実績報告について議題とする。事務局より説明を求める。</p> <p>(事務局より全体 資料1に関する取り組みについて説明)</p> <p>全体資料、資料1の実績報告内容について意見を求める。</p> <p>後方支援制度について説明する。訪問診療をしている患者さんが、急に具合が悪くなった場合、病院を探すのが大変。そのため、その時にバイタルリンクに登録している人の中でバックベッド登録をしている人に対して、市内3病院で入院させてくれる仕組みであり、病院に対してはご協力がありがたいと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>救急医療情報キットについて説明させていただくが、実際、救急で自宅に駆け付けると玄関や冷蔵庫にシールが貼っていない家があるので、今後とも周知をお願いしたい。現場では、シートに欲しい情報があり大変ありがたい。シートの中身の更新ができていないことが毎回問題にあがることがある。新しい内容が含まれていないことが多いので、現場に行った時にも周知をしていきたいと思っている。</p>
<p>会長</p>	<p>○議題3 認知症初期集中支援チームの実績報告について議題とする。事務局より説明を求める。</p> <p>(事務局より資料2説明)</p>
<p>委員</p>	<p>民生委員からもお知らせをしているが、民生委員が関わったとしても、家族の理解がないと前に進まないことが多い。本人が怪我や体調が悪くなるなど状況がかわらない限り、家族の考えも変わらないと感ずることがある。民生委員からの連絡があった場合は、包括等が対象者に対して状況を把握し、手厚く関わっていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>民生委員からよく、お声をかけていただき大変ありがたいと思っている。</p> <p>初期集中支援チームの活動として関わってもらいたいが、御本人や家族が地域包括までの相談はよいが、市役所までは知ってほしくてないという人もいる。初期集中支援チームまでつなげられない人もいるので、ぜひ引き続き民生委員からの地域の情報をいただくとありがたい。</p>
<p>会長</p>	<p>○議題4 令和5年度在宅医療・介護連携推進事業および認知症総合支援事業計画について議題とする説明を求める。</p>

事務局 会長	(事務局より資料3説明) 個別避難計画について、この協議会としては、今後どのように災害に対する取り組みが位置づけられ、どのような関わりが必要か。
事務局	現在、市役所内の関係課で方向性が統一できてない。在宅に暮らしている人について、情報収集など必要な場合は、ケアマネジャーを通して今後ご相談をしていきたいと思う。
会長	コロナ前は毎年のように在宅医療フォーラムを実施していたが、今後はどのように実施をしていくのか。
事務局	令和6年度に実施予定。認知症関連の講演会、介護予防講演会、在宅医療関連の講演会3つのテーマで3年に1度の講演会を実施していく予定としている。
会長	○議題5 意見交換「在宅医療と介護連携について感じる事」について議題とする。説明を求める。 事務局補足説明 自分が感じていること、自分がやろうとしていること、勤務しているところの特色など、今後、在宅・介護に対して携わっていこうと思っているかなどを自由にお話ししていただきたい。
委員	バイタルリンクについて、薬局としてシステムを導入したいと思っている。現在は、FAXや、別のシステムを使っているが今後導入したいと考えている。救急医療情報シートの内容が更新されないということをよく聞くが、今はマイナンバー連携で確認できるものも増えてきた。うまく、そこと一緒に活用できればと思う。マイナンバーカードについて高齢者は持っていない人もいるのでうまく活用できるかわからないが方法としてはあるかと思う。
委員	認知症の人を支えるということは、訪問しているととても大事だと思っている。認知症の高齢者を支える人も高齢者という現状が多いので、支える高齢者に対しても、リハ職として予防、運動、活動、参加につなげるのが大事だと思う。まず始めに相談する先がどこなのかかわからない人も多いので、相談する窓口の周知はとても大事だと思っている。また、これからは、サルコペニア、フレイルという状況が、介護する上でも問題になってきて今後重要な取り組みとなるので、栄養、食事、運動、活動が大事になる。在宅生活の中で、大変になってくると諦めてしまうこととしては、下の物をとる、入浴をすることとされているので、在宅生活を支えるうえで、今後何かできないかを感じているところである。
委員	訪問診療を受けている方を救急搬送する場合、市外クリニックの訪問診療を受けている方もおり、情報が必要な場合に医師に電話連絡をすることがある。そこで、市外の訪問診療の医師もバイタルリンクでの共有ができるとありがたいので、今後も周知をしていただければと思う。また、横のつながりを大事にして対応をスムーズにできればと思っている。
委員	3年くらい前、ケアマネジャーから自宅で看取りする患者さんに対して、地域の見守りも一緒にしてほしいと依頼されたことがある。住み慣れた家で死ぬまで過ごしたいという思いを汲んだうえで行ったことだが、在宅医療と介護の連携が大切

委員	<p>だと感じた。ケアマネジャーなどが地域の事情なども熟知していただき、その方が自宅で過せるように、今後も地域包括ケアシステムというものを作っていくことが大事である。また、自宅で介護している人が、大変で心が折れてしまうことがある。その時に、今のつらい現状を話してもらっただけでも楽になるので、ぜひ話ができる機会を作っていきたい。介護する人に対して、地域の民生委員と連携をして、対応できればと思う。今後も包括との情報交換をして行ければと思う。</p> <p>在宅医療と介護の連携について、最初の第一歩が大事である。医療側から介護側に連携するときには誰と連携するかがわかりやすいが、介護側から医療側へと連携する時に誰と連携すればよいかかわりづらいつらいことがあると思う。歯科でいうと訪問歯科をやっているところがどこなのかなどがわかりづらいつらい状況もあると思う。その時に、在宅療養支援診療所とか施設基準などの情報収集をして確認をしてほしい。また、目指す姿の①にもあるように、切れ目のないサービスと言われているが、要支援の方は切れ目が出やすい。要支援の方でサービスを受けていない人もいる。サービスを受けている人はケアマネジャーがいるので大丈夫だが、サービスを受けていない人については、包括の職員と連携を図れるようにしていければと思う。</p>
委員	<p>介護の連携だけでは、医療の方に相談することもある。訪問診療の先生がバイタルリンクを導入ができていないので、活用ができておらず、関わっている事業所が、ノートなどで情報交換をしている。今後は導入できるようにしていければと思っている。</p>
委員	<p>認知症の高齢者については、高齢者虐待の加害者の場合と被害者の場合どちらにもなることがある。また、認知症の高齢者の行方不明者が多い現状。行方不明者があった場合、家族の同意を得ている人に関しては、市役所に情報提供している。これは全国の警察でやっているわけではなく、大阪府が実施し始め、その後千葉県で導入し5年くらいたつ。昨年度は36件情報提供していると報告があったが、保護の件数自体はその数の4～5倍くらいいる。毎年全国で徘徊して見つからず、5名くらいの方が亡くなっている状況あり。今回、市に情報提供し、その後のような関わりをしているかが分かったので、今後も家族の同意を取り市に情報提供していきたい。</p>
委員	<p>ケアマネジャーとして白井市で仕事をしてみて、行政の対応がよいと感じている。このようにいろいろと検討されているので、やりやすいのではないかと感じている。また、最近は病院との連携もしやすくなっている。今後は、ケアマネジャーとしてどのようなことを考え、仕事をしていけばよいか考えていきたい。認知症の方への対応などについて、家族の同意がないといろいろ難しいことがあると言われている。家族、本人の気持ちをしっかり聞き、周りの人と共有することで問題を解決することができると思う。今後も関わることで、どのように伝えていけるかを考えていきたい。</p>
委員	<p>自分は高知県出身だが、高知県は高齢化がかなり進んでいる。介護施設、病院なども多くあるが働き手が少なく追いついていない状況のため、介護施設での看取りを積極的にしている。白井市では介護施設での看取りしているところは少ない</p>

会長 事務局	<p>ので、救急車を呼び最後は病院へという対応をしていることが多い。その時にどのように最後関わるかというのが課題にもなる。啓蒙するためにもフォーラムなどの取り組みが大事になる。そのためにも、元気なうちから、自分が亡くなる時や親御さんを看取る時どうするのかということを考えていく必要がある。自分の意思があるうち、認知症になる前に考えたり話したりする機会を作っていく必要がある。</p> <p>他に意見はあるか。 (意見なし)</p> <p>以上で、本日の会議を終了する。</p>
-----------	--